

千葉県立中央博物館 施設整備計画原案

はじめに 計画策定の趣旨

1. これまでの経緯

2. 施設整備の基本方針

2-1 基本的な考え方

2-2 必要諸室と概要

3. 建設候補地

4. 展示エリアの基本方針

4-1 基本的な考え方

4-2 展示構成

4-3 常設展示の考え方

令和2年9月に策定した「千葉県立博物館の今後の在り方」において、中央博物館の機能強化を図り、専門職員と博物館資料を集約する方針を定めました。この方針に沿って中央博物館の強化すべき機能を整理し、令和5年3月には「千葉県立中央博物館機能強化実施方策」を策定しました。

これらを踏まえ、令和6年3月にはリニューアルを見据えたソフト面の基本計画として「千葉県立中央博物館みらい計画」を策定しました。これをうけ、常設展示の見直しや博物館資料を収蔵するスペースの確保に必要な設備等について検討し、ハード面の基本計画として「施設整備計画」を策定します。

千葉県立博物館の
今後の在り方
(R2.9策定)

千葉県立中央博物館
機能強化実施方策
(R5.3策定)

千葉県立中央博物館
リニューアル基本計画

みらい計画
〈ソフト面の基本計画〉
(R6.3策定)

施設整備計画
〈ハード面の基本計画〉

【1】千葉県立博物館の今後の在り方(令和2年9月策定)

今後の県立博物館の役割や再整備の方針について整理するとともに、施設整備についての方向性を以下のとおり示しました。

○役割

全県域を俯瞰した資料の収集・保管、調査・研究、展示・教育普及等を行うとともに、県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める。

○考え方

中央博物館：知の創造拠点として、これまで以上に県内の博物館活動の拠点としての役割を果たせるよう、調査・学術研究、博物館資料救済、文化財の保存・活用、人材育成等の機能を強化する。創造した知見が県の内外、さらには海外にも発信され、誰もが千葉県の魅力に触れ、学び親しむために、何度も足を運びたい博物館を目指す。

・ **本館**：人文科学系の専門職員と博物館資料を集約するとともに、従来の自然系活動の優れた部分を活かし、学術研究機能を中心に収集・保管、展示機能を強化する。

・ **分館海の博物館**：研究機能等を発揮する上で海辺に設置するため、現状の運営を継続する。

・ **大利根分館**：早期に廃止の時期を決定するとともに、地元由来する博物館資料については、できる限り地元で有効活用されるよう協議を進める。

・ **大多喜城分館※**：地元町における有効活用に向けた協議を進める。

房総のむら：指定管理者制度を導入し、一定の成果を上げていることから、現状の運営を維持する。

関宿城博物館：地元市における有効活用に向けた協議を進める。

現代産業科学館：継承すべき内容や活用方法等について協議していく。

○施設整備について**・常設展示**

開館以来更新されていない常設展示については、ワンストップで、千葉県の自然・歴史・文化等に触れることができるようリニューアルに取り組みます。新たな展示には、自然科学・人文科学等の学問領域を融合した総合力に秀でた内容とすることが求められます。さらに、**時事的な話題**を随時紹介でき、充実した企画展示が可能となるようスペースの確保や可変性の高い展示室とすることも必要です。

・収蔵庫

総合博物館として、**集約化する資料の保管用スペースを確保することに加え**、様々な素材からなる博物館資料を適切に保管するために複数の恒温恒湿機能、文化財害虫の侵入を許さない密閉機能、不活性ガスによる消火機能、高いセキュリティ機能等も備える必要があります。

さらに、近年多発している風水害にも対応できるような防災機能を備えるとともに、**被災施設の資料を一時的に保管するスペースも確保**する必要があります。

【2】千葉県立中央博物館機能強化実施方策(令和5年3月策定)

「千葉県立博物館の今後の在り方」に基づき、中央博物館の強化すべき機能及び施設整備の考え方について、以下のとおり整理しました。

○強化すべき機能

- ・総合博物館としての高度化：自然系、人文系共に強く、両者が連携した活動を展開
- ・地域連携ステーション：県内博物館の拠点となり、地域連携や地域振興に貢献
- ・アーカイブセンター：資料のデジタル化の促進や一元管理の実現

○施設整備について

大項目	取組	説明
常設展示室	人文科学系を充実させ自然科学と併せた総合展示としてリニューアル	これまで地域館に分散していた人文系展示を集約することで、本県の自然、歴史、文化にワンストップで触れることができる
	可変性・柔軟性があり、最新技術を活用した展示	10年程度の将来を見据えた展示計画の見直しに対応でき、時事的な話題を紹介できる什器や展示構成とするとともに、新技術にキャッチアップできるよう、大学や企業との連携による展示更新を図る
	業界標準への対応	技術面の課題を検討し、国宝など高いレベルの展示に対応可能な機能を有した展示室にリニューアルする
企画展示室	レイアウトの見直し	事実上、第1、第2に分かれているレイアウトを見直し、来館者目線でレイアウトをリニューアルする
	業界標準への対応	技術面の課題を検討し、国宝など高いレベルの展示に対応可能な機能を有した展示室にリニューアルする
収蔵庫	防災機能の高い収蔵庫	激甚化する自然災害から収蔵品を守るとともに、被災施設の資料を一時保管するなど、県内の博物館資料救済ネットワークの拠点としての機能を有する
	集約資料等、将来を見据えた保管スペースの確保	地域館から集約する人文系資料や、被災施設の資料を一時的に保管するスペースなど、将来を見据えた保管スペースを確保する
	恒温恒湿機能	様々な素材からなる博物館資料を適切に保管する複数の恒温恒湿機能を有する
	総合的有害生物管理への対応	文化財害虫の侵入を許さない密閉機能を有する
	不活性ガスによる消火機能	貴重な収蔵品を火災から守る消火機能を有する
	高いセキュリティ機能	貴重な収蔵品を盗難や破壊活動から保護する機能を有する
その他	ショップ・レストランの魅力向上	展示を見る以外にも、憩いの場として県民が過ごすことができる場を目指す
	閲覧スペースの整備	レファレンスサービス充実のための閲覧スペースを整備する
	団体対応スペースの整備	学校連携やインバウンド対応等を進めるため、食事等の休憩ができるスペースを整備する

【3】千葉県立中央博物館みらい計画(令和6年3月策定)

「千葉県立博物館の今後の在り方」「千葉県立中央博物館機能強化実施方策」をうけ、ソフト面の方向性を整理しました。

○これからの中央博物館

自然系機能を維持・発展、人文系機能を集約・強化※することで総合博物館としての機能を強める

○目的

県内博物館の中心となり、自然と歴史、文化に関する県民の知的需要にこたえ、生涯学習及び地域づくりに貢献し、ひいては科学の進歩・社会の発展に寄与する

○テーマ

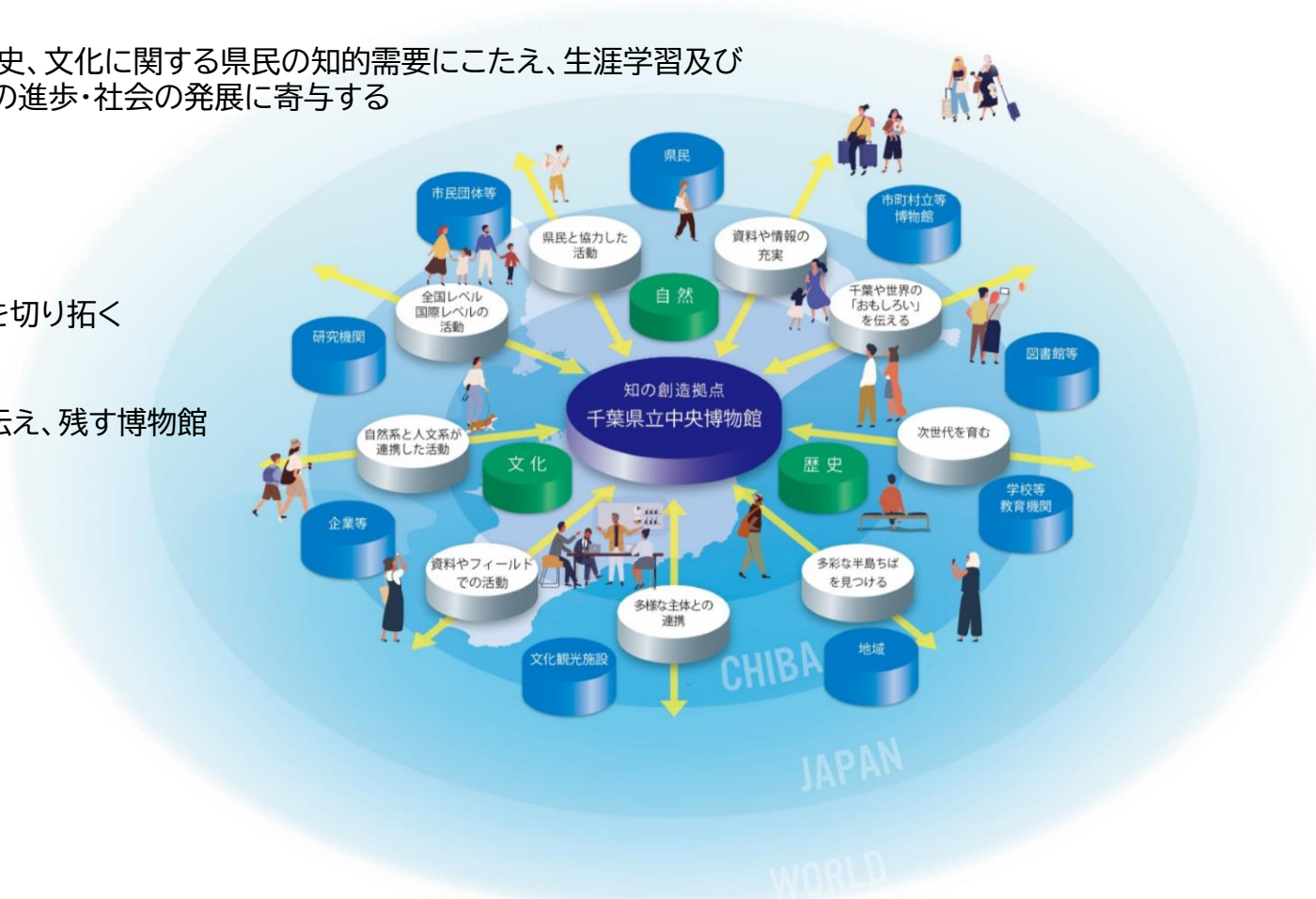
自然と歴史、文化

○基本コンセプト

多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く

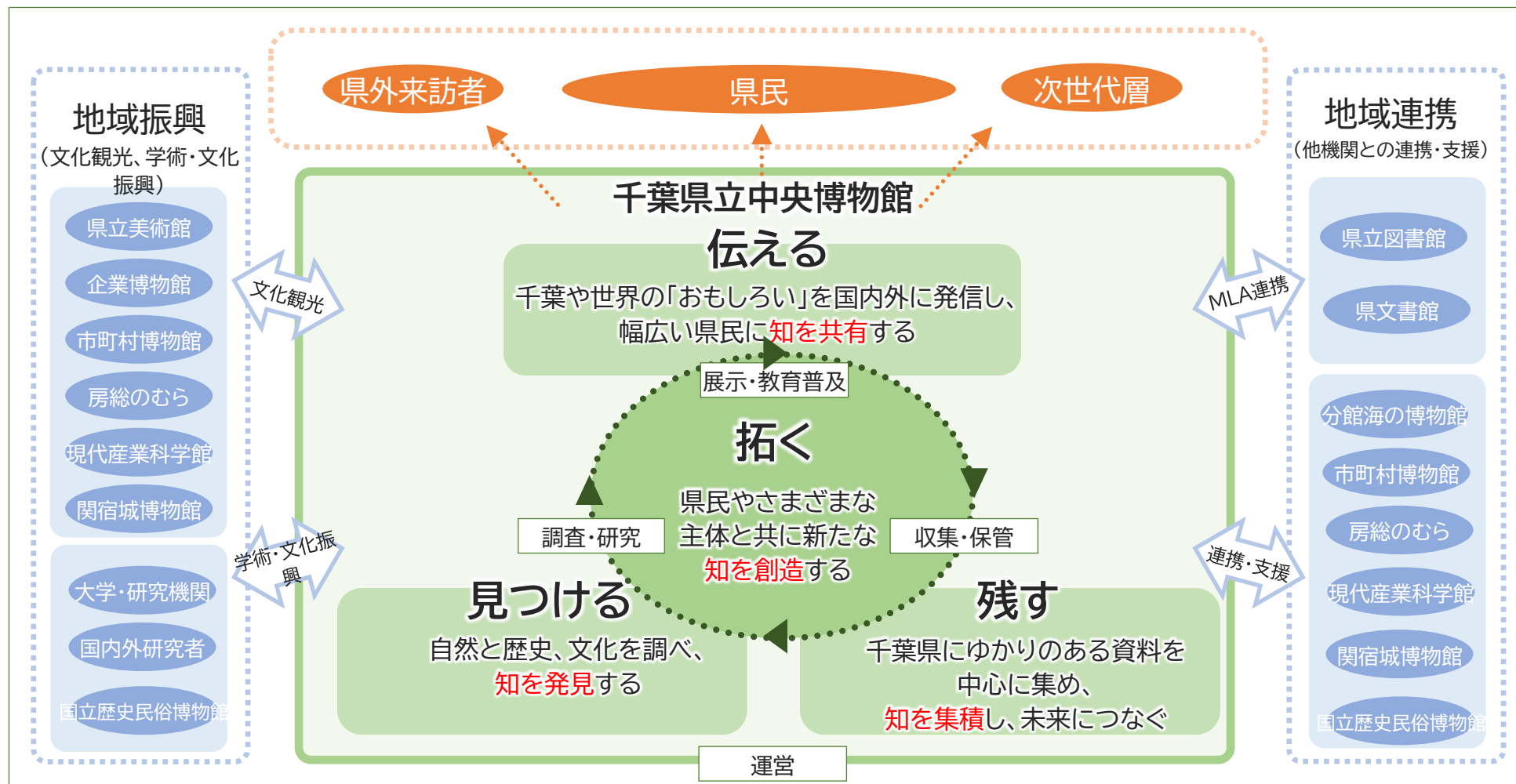
○目指す姿

- ・千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館
- ・千葉から世界に拓く博物館



※大多喜城分館及び大利根分館の機能は集約予定。関宿城博物館及び現代産業科学館については在り方検討中。

【3】千葉県立中央博物館みらい計画(令和6年3月策定)



2-1 基本的な考え方

これまでの経緯を踏まえ、施設整備の基本的な考え方を以下のとおり定めます。

施設コンセプト

幅広い県民とともに、千葉をつなぎ、世界に拓く、
「知の創造拠点」としての施設の具現化

①収集・保管

- ・ 地域館から集約する資料を継承するスペースの確保
- ・ 他機関の被災資料のレスキューが可能な場と設備の設置 **地域連携**
- ・ 継続的な資料収集を見込んだ収蔵庫などの確保
- ・ 時代にあった資料の作成、整理ができる設備の充実

②調査・研究

- ・ 集約する地域館の機能を引継いだうえで、自然と歴史、文化の調査・研究が滞りなく実施できる設備の整備 **地域連携**
- ・ 職員の高度な専門性を活かした科学の進歩に寄与する研究を支える設備の充実
- ・ 長期的・組織的研究方針に沿った施設整備

③展示・教育普及

- ・ 集約する地域館の機能を引継いだうえで、自然と歴史、文化を扱う総合展示としてリニューアル
- ・ 千葉の「おもしろい」が来館者一人ひとりを知の探究・創造へと導くため、見える収蔵庫や閲覧スペース等の整備
- ・ 幅広いテーマの企画展を実現し、公開承認施設の基準を満たす施設に整備
- ・ 多様な団体や市民等が活動できる場や、様々な機関等との連携を視野にいれて施設の整備 **地域連携**
- ・ 千葉の文化観光へ貢献する場を整備 **地域振興**

④運営

- ・ 誰もが使いやすく、楽しめる、県民に開かれた施設とするための配慮
- ・ ショップやレストラン、赤ちゃん休憩室等のアメニティ設備の充実
- ・ 環境負荷に配慮した施設の整備
- ・ あらゆる人が千葉の魅力や博物館事業に触れられる環境を確立 **デジタル化**

2-2 必要諸室と概要

博物館の活動(①収集・保管、②調査・研究、③展示・教育普及、④運営)に必要な諸室をまとめます。

①収集・保管

■新設する諸室

機能	区分	概要
収蔵	乾燥資料関係の収蔵庫	地域館から集約する資料を含め、各分野(地学系、植物系、動物系、考古系、歴史系、民俗系、貴重書など)の資料の収蔵庫。 (一部は見える収蔵庫とすることを検討。)
	液浸標本関係の収蔵庫	ホルマリン保存、アルコール保存の資料の収蔵庫。
	冷凍・冷蔵資料関係の収蔵庫	リビングコレクションやDNAサンプル等冷凍・冷蔵保存の資料の収蔵庫。
	書庫	長期保存図書の収蔵庫。
資料作成・整理	資料一時保管庫、冷凍庫室 など	燻蒸や処理前の資料を保管する場所。
	標本製作室、整理作業室 など	各分野の標本作成や資料整理作業を行う場所。
	資料洗浄室、動物処理室 など	各分野の資料の前処理やレスキュー作業を行う場所。
資料管理・活用	燻蒸室	資料のガス燻蒸を行う場所。
	資料・標本閲覧室	資料や標本の閲覧、貸出準備等を行う場所。

②調査・研究

機能	区分	概要
実験	実験室、分析室 など	各分野の実験や分析等を行う場所。
	薬品庫	各実験等に使用する薬品を収める場所。
研究員執務	研究室 など	研究員が執務する場所。

2-2 必要諸室と概要

③展示・教育普及

■ 新設する諸室

機能	区分	概要
展示	常設展示室	「自然と歴史、文化」に関する常設展示のスペース。 (一部体験的な展示を導入。収蔵庫の一部を「見せる収蔵庫」等とすることを検討。)
	企画展示室	特別展示等を行うスペース。 (展示するものに応じて自由にレイアウトできる構造)
展示準備	展示準備室、工作室 など	パネル印刷等の準備を行ったり、工具等の保管をする場所。
	展示用具倉庫、活用資料保管庫 など	展示ケース、展示台、演示台、展示用レプリカ資料等の保管場所。
教育普及	レファレンスコーナー、図書閲覧室 など	県民が千葉の「おもしろい」を探究するため、図書の閲覧や来館者の質問等に応える場所。
	講堂、研修室 など	講演会や講座等のイベントを実施する場所。
	多目的スペース など	多様な人々が交流したり、団体や配慮が必要な方が安心して利用するための場所。
	普及事業用倉庫	学習キットや配布物等の保管場所。
生態園	オリエンテーションハウス、 野鳥観察舎 など	生態園の紹介や生き物を観察するための場所。 (ビジターセンターとしての役割。ボランティア等の活動場所を兼ねる。)
	管理棟 など	生態園を管理するための場所。

2-2 必要諸室と概要

■ 新設する諸室

④運営

機能	区分	概要
利用者サービス	救護室	具合が悪くなった方などを救護する場所。
	赤ちゃん休憩室	授乳やおむつ替えなどができる場所。
	レストラン	人々が集い、憩い、交流する場所。
	休憩・交流スペース	人々が集い、憩い、交流する場所。
	ロッカー室 など	大きな荷物等を預けられる場所。
	ショップ	利用者ニーズを踏まえた商品を販売する場所。
職員執務	館長室、事務室 など	職員が執務する場所。
	応接室、会議室 など	来客対応や打合せを行う場所。
博物館運用	搬入口、荷解き室 など	トラック等で資料や荷物を搬入出し、展開する場所。 (公開承認施設の基準を満たす構造とする。)
	事務用倉庫 など	事務用品や書類等を保管する場所。
	印刷室、更衣室 など	職員が執務をする上で必要な諸室。 (必要に応じてボランティア等も利用。)
	情報管理室	情報システム関連の機器等をまとめて管理する場所。
博物館管理	警備室、清掃員室、機械室、廊下、エントランス など	博物館の日々の運営に必要な諸室。

基本的な考え方

施設整備の方針とこれまでの経緯等を踏まえ、引き続き青葉の森公園内に設置することとし、老朽化した既存施設の改修や増床を図ります。

<現中央博物館の成り立ち>

【千葉県博物館設置構想（昭和48年）】

- ・県立博物館施設の総合センターとして県の中央である千葉市に本館を設置し、房総の自然環境がよく保存されている場所に分館を設置

【千葉県立中央博物館（仮称）基本構想（昭和58年）】

- ・保存のよい樹林地や池があり、様々な生物が生息する青葉の森公園に設置し、生態園を併設



現中央博物館の概要

	建物構造	面積(㎡)	備考
敷地面積	—	66,178	本館＋生態園 (舟田池を除く)
中央博物館 (本館)	地上2階・地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造	15,254	
オリエンテーションハウス	鉄骨平屋	216	
野鳥観察舎	鉄骨平屋	82	
管理棟	鉄骨平屋	270	

< 青葉の森公園の立地のポテンシャル >

- ・自然鑑賞やレクリエーション、文化・スポーツといった機能もあわせもつ緑に調和した文化の香り高い総合的な公園
【青葉の森公園HPより】
- ・新千葉県立図書館・文書館複合施設（設置予定）や青葉の森公園芸術文化ホールなど県立の文化施設が集まっており、連携による文化活動の展開が可能であり（MLA連携など）、文化観光の拠点となる
- ・広域避難場所にも指定されており、災害の影響が比較的小さい
- ・公共交通機関や自家用車等の様々な交通手段で訪れることができる



国土地理院地図を一部改変



青葉の森公園HPより一部改変

アクセス

【電車・バス】JR千葉駅、JR蘇我駅よりそれぞれバスで約15分

【徒歩】千葉寺駅から徒歩約20分

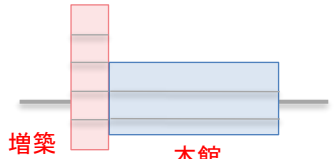
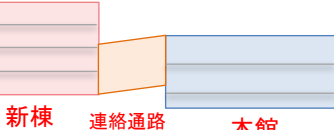
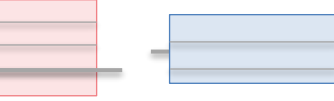
【自家用車】松ヶ丘ICから約5分、千葉東JCから約10分

各候補地案

現中央博物館（本館）に近いカルチャーゾーン内で候補地を3案検討しました。



国土地理院地図を一部改変

A案	構造:増築+全面改修 場所:移転なし
	計画可能な建物構造  本館:地上2階・地下1階 増築:地上4階・地下1階 最高地上高 19.5m
B案	構造:本館と新棟を連絡通路で連結 場所:生態園西側に新棟建設
	計画可能な建物構造  本館:地上2階・地下1階 新棟:地上3階・地下1階 最高地上高 19.5m
C案	構造:本館と新棟に分棟 場所:西洋庭園に新棟建築
	計画可能な建物構造  本館:地上2階・地下1階 新棟:地上3階・地下1階 最高地上高 19.5m

各候補地の比較

			A案 構造:増築＋全面改修 場所:移転なし	B案 構造:本館と新棟を連絡通路で連結 場所:生態園西側に新棟建設	C案 構造:本館と新棟に分棟 場所:西洋庭園に新棟建築
建設条件の比較	必要な延床面積		✕ 確保できない	○ 確保可能	○ 確保可能
	免震構造（公開承認施設を目指すに当たり望ましい設備）		✕ ・導入不可能（建物の揺れは抑制できないため、資料破損を防止できない） （本館と増築部分が一体構造となるため）	△ ・導入可能（連絡通路と新棟の連結部に特殊工事が必要）	○ ・導入可能（建物の揺れを抑えることで、資料破損を防止できる）
	費用		✕ ・最も高額	△ ・A案とC案の間	○ ・最も低額
	工事期間中の業務		✕ ・工事期間中の休館が必要 ・職員執務スペースの確保が別途必要	○ ・工事期間中の休館は不要	○ ・工事期間中の休館は不要
利便性の比較	青葉の森公園の文化施設との回遊性・活性化		— ・現状と同様	✕ ・新棟が青葉の森公園の北端に位置するため、回遊性が低下する。	○ ・本館、生態園、図書館・文書館、芸術文化ホール、新棟が同心円状に並ぶため、回遊性の向上が見込まれる ・新棟がレクリエーションゾーンに隣接するため、わんぱく広場等を利用する親子連れ等を新棟に誘導しやすい
	来館者動線		○ ・移動は全て屋内 （移動距離が短い）	△ ・移動は全て屋内 （移動距離がやや長い）	✕ ・屋外移動が生じる （移動距離が長い）
	博物館業務への影響	資料運搬作業	○ ・移動は全て屋内 （移動距離が短い）	△ ・移動は全て屋内 （移動距離がやや長い）	✕ ・屋外移動が生じる （移動距離が長い）
		業務用駐車場（業者等）	— ・現状と同様（35台）	✕ ・大幅に減少（▲30台程度） （現駐車場に連絡通路を建設するため）	○ ・増加が可能
生態園への影響			○ ・なし	✕ ・生態園の環境が変わるため、動植物に影響がある ・生態園の一部を新棟の敷地として使用しなければならず、移設先の確保が困難	○ ・新棟から生態園入口までが近くなる
近隣住民への影響			✕ ・北側の戸建て住宅の日照及び景観に影響 （高さ約20mの建築物が建つため）	✕ ・西側の集合住宅地の日照及び景観に影響 （高さ約20mの建築物が建つため）	○ ・なし （周辺に住宅地はないため）
総合評価			✕	△	○

4-1 基本的な考え方

これからの中央博物館の展示についての基本的な考え方を以下のとおり定めます。

展示の基本的方向性／コンセプト

千葉や世界の「おもしろい」の発信により
来館者一人ひとりを知の探究・創造へと導く展示の具現化

展示の基本的な考え方

1

千葉との出会いから「おもしろい」の発見、一人ひとりの探求へと導くストーリー

興味関心や知識の異なるさまざまな層に対応し、一人ひとりの知的好奇心を呼び覚まし、導いていく展示の具現化

2

自然と歴史、文化の多彩な広がりを体感し、一人ひとりの「おもしろい」が見つかる展示

中央博物館が蓄積した資料を主軸とした展示等により、自然と歴史、文化の多彩な広がりを展開し、来館者の知的好奇心を喚起

3

最新の研究や資料収集の成果をタイムリーに発信

常に国際的な視野から最新、最先端の学術的成果を千葉から世界に発信し、「千葉から世界に拓く博物館」を実現

4

展示室からフィールドへとつながる展示の具現化

来館者一人ひとりの知的好奇心を「フィールド」へとつなぎ、半島ちばの多彩な魅力を来館者が体感し、参加していくきっかけを提供

5

デジタルとリアル連携による知の創造拠点の形成

「おもしろい」を入り口に一人ひとりの探求へと導く仕掛けとしてのデジタルミュージアム(アーカイブ)を展開。リアル展示との連携を図る

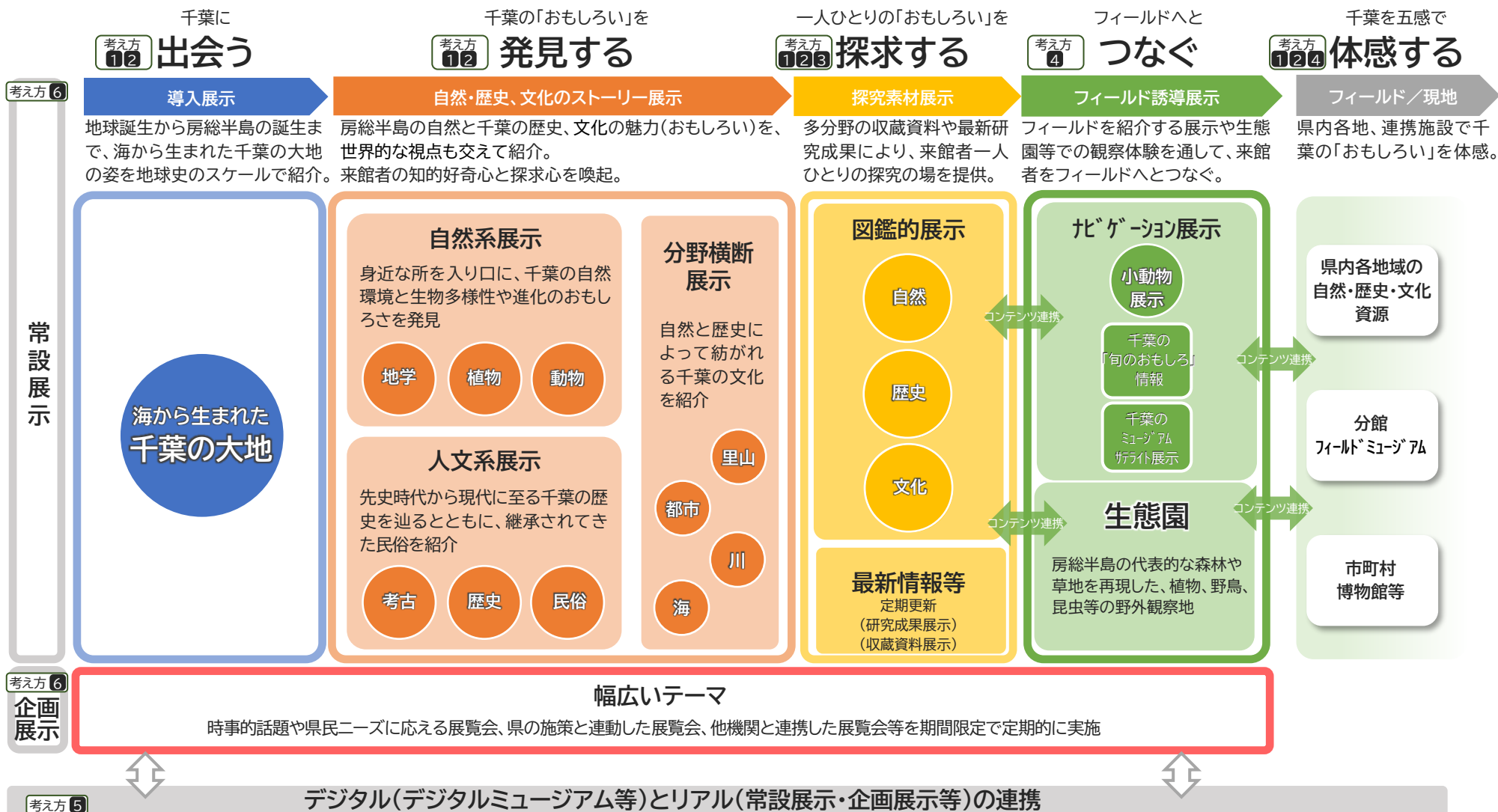
6

多様な資料の展示に対応し、誰もが利用しやすい展示環境を整備

公開承認施設の基準への対応、可変性の高い展示室の実現、展示什器の機能向上、ユニバーサルデザインの導入などにより、展示環境を整える

4-2展示構成

地球史と世界的視点から千葉のさまざまな姿を発見・探求しながら、
フィールドでの体感へとつながっていく展示構成
「世界とつながる千葉」



4-3常設展示の考え方

常設

出会う

発見

探究

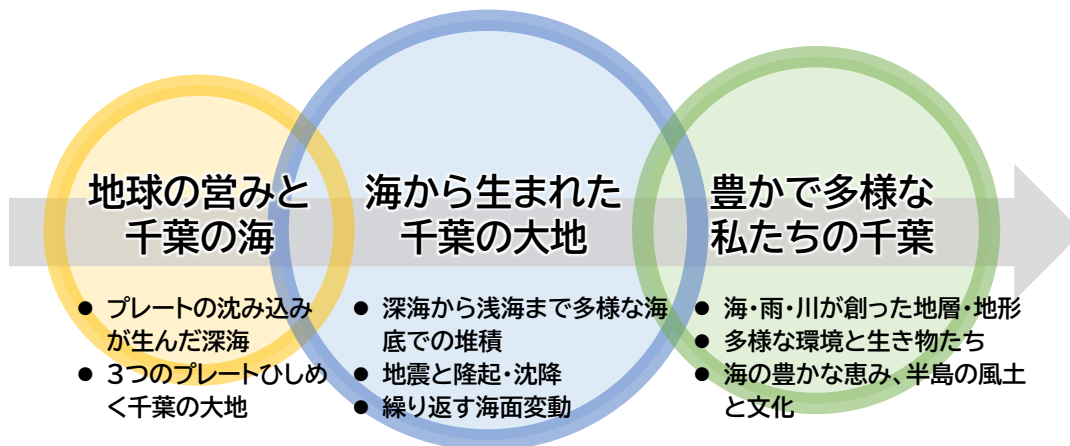
フィールド
誘導

導入展示

千葉に出会う～海から生まれた千葉の大地～

地球誕生から房総半島の誕生まで、海から生まれた千葉の大地の姿を地球史のスケールで紹介。

(内容イメージ)



流れ

展示ストーリーの全体像を体感的に伝える

- 千葉の自然・歴史、文化の特徴あるストーリーの全体像を体感してもらうことで、各展示コーナーにおける「千葉のおもしろい」の理解につなげる。

地球スケールの営みと身近な千葉をつなぐ

- 千葉の大地を形成した地球史と、身近な千葉の自然・歴史、文化がつながる構成とし、地球史の視点から千葉を捉えてもらう。

演出

地球の営みと私たちの千葉のつながりを時を超えて一望できる演出

- 海から生まれた千葉の大地のストーリーや生命の誕生から現世の千葉までつながる生物の歴史を、地球史のスケールでわかりやすく一望できる展示を行う。
- 海から生まれた大地(半島)であることが、現在の特徴ある千葉の自然と歴史、文化につながっていることを示し、「自然・歴史・文化のストーリー展示」へとつなぐ。

想像力を育む印象的な体験を提供

- 視覚的かつ体感的な演出手法により、千葉のさまざまな姿への時間や空間(宇宙)を超えた想像力を広げてもらう。

ストーリー展示 ▶ 千葉の「おもしろい」を発見する

常設

出会う

発見

探究

フィールド
誘導

房総半島の自然と千葉の歴史、文化の魅力(おもしろい)を、世界的な視点も交えて紹介。
来館者の知的好奇心と探求心を喚起。

構成

来館者を導くわかりやすいストーリー空間の展開

- 千葉の自然・歴史・文化のストーリーを順を追って見ていく展示構成とし、展示空間を歩くだけで千葉の自然の成り立ちと魅力(おもしろい)がわかり、発見できる展示空間を実現。

ストーリーサインが来館者を導き、各コーナーを総合的に解説

- 各コーナーの導入にそれぞれのストーリーを総合的かつ印象的に紹介するストーリーサインを設定。来館者を導くとともに、各コーナーの全体像と資料・標本展示のつながりを理解していただく。
- ストーリーサインをジオラマ等と組み合わせることで、立体的で印象的な魅力ある展示を展開。

豊富な資料が千葉の自然・歴史・文化のストーリーを語る展示

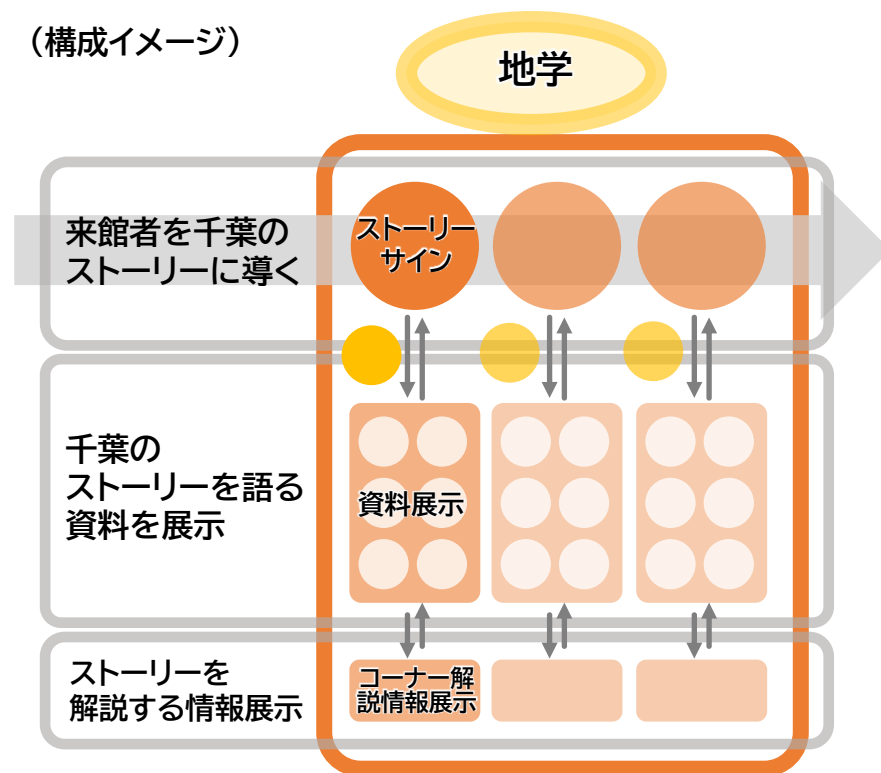
- ストーリーサインを導入として、中央博ならではの資料をベースに展示を展開。さまざまな資料を通じて千葉の多彩なストーリーを発見し、来館者の想像力が広がる展示を具現化。

演出

体験的な手法も併用した展示の実現

- 展示物に触れたりできるような体験的な手法を取り入れ、だれでも楽しく直感的に学べる展示を展開。

(構成イメージ)



(内容イメージ)

常設

出会う

発見

探究

フィールド
誘導

①自然系展示 ～身近な入口から、千葉の自然環境と生物多様性・進化を発見～

地学

- 地震でできた地形(南房総の海岸段丘)
- チバニアンの地層
(市原市田淵の地層剥ぎ取り標本)
- 房総丘陵の岩石(石材に利用された房州石)
- 千葉県発見の新種の鉱物(千葉石)
- 千葉県発見の新種のカメ化石
(ニホンハナガメ)

など

植物

- 海辺の植物・菌類・藻類
(砂浜や磯など多様な環境に生きる植物)
- 丘陵・谷津の植物・菌類
(氷河期から生き残っている樹木)
- 水辺の植物(絶滅から蘇った花)
- 千葉の外来種(農業等悪影響を及ぼす水草)

など

動物

- 海の動物
(深海生物、千葉に集まる世界の海鳥や鯨類)
- 陸の動物(限られた環境で生きる動物)
- 水辺の動物(千葉に生息する希少種)
- 千葉の外来種(生息地が拡大しているキョン)

など

②人文系展示 ～先史時代から現代に至る千葉の歴史をめぐる～

考古

- 環状ブロック群(旧石器時代の遺跡)
- 貝塚と縄文文化
(日本一の貝塚数と縄文集落)
- 古墳(全国最大規模の古墳)
- 古代寺院・官衙
(東日本最古の寺・古代の役所)

など

歴史

- 古代の生活・特産
(墨書土器、潜り漁とアワビ貢納)
- 中世の動乱・信仰と房総の山城・平山城
(久留里城、大多喜城、国府台合戦、妙見信仰)
- 近世の房総諸藩と産業・学問
(醸造、水運、関宿藩と川関所、佐倉藩と蘭学)
- 近現代の政治・産業
(県の成り立ちや産業の歴史)

など

民俗

- 生活(衣食住、人生儀礼)
- 年中行事(オビシヤ、盆綱)
- 信仰
(安産祈願の犬供養、香取信仰、出羽三山信仰)
- 民俗芸能・祭礼
(鬼来迎、つく舞、お浜降り、山車行事)
- 民俗技術(上総掘り、箕、七夕馬)

など

③分野横断展示 ～自然と歴史によって紡がれる千葉の文化を総合的な視点で紹介～

里山

- 里山の暮らし
(民家と周辺の景観、ムラの変遷、土地の利用、自然の利用)

など

都市

- 町場の暮らし
(職人と商人、鉄道と行商、さまざまな町、現在の都市)

など

川

- 川の暮らし
(舟運、川漁、水利・治水、水郷地帯(香取(大利根)、関宿))

など

海

- 海の暮らし
(海の漁、イワシと房総漁村の風景)

など

探究素材展示

一人ひとりの「おもしろい」を探究する

常設

出会う

発見

探究

フィールド
誘導

多分野の収蔵資料や最新研究成果により、来館者一人ひとりの探究の場を提供。

構成

来館者一人ひとりの興味に応じて自由に見ていける展示
ゾーニング

- 来館者の好奇心を原動力に、一人ひとりの「おもしろい」を見つけていく自由な探究空間を提供。

資料の中にある「おもしろい」の見つけ方を案内する「探究ガイダンス」展示を設定

- 分類の背景にある考え方や比較の仕方などを紹介する「探究ガイダンス展示」を設定し、資料や標本の中にある「おもしろい」を来館者一人ひとりが探究していくための入り口を提供。
- グローバルかつアカデミックな視点からの解説により、世界と千葉の「おもしろい」がつながる探究の場を具現化。

「最新研究成果展示」を設定

- 各コーナーに最新の研究成果を紹介する展示を設定し、多彩にひろがる千葉の「おもしろい」を深掘りすることで、来館者の興味や好奇心を喚起。

収集活動の最新情報(成果)を発信する「新着資料展示」を設定

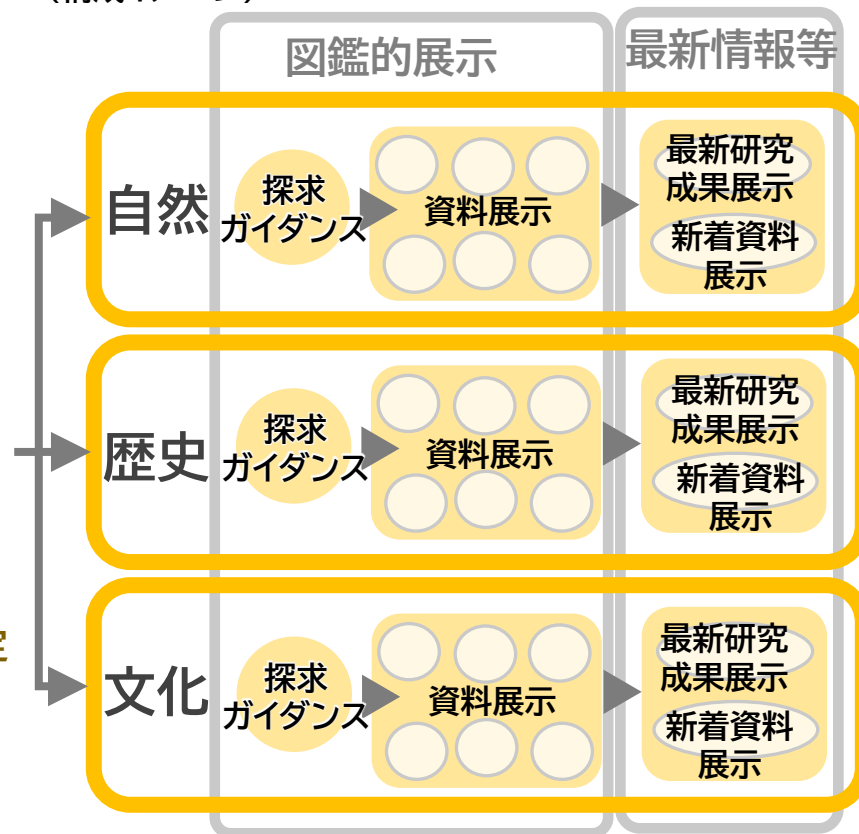
- 収集活動の最新情報として、新着資料とその価値を紹介する展示を設定。
- 収集活動の成果発信の場と位置付けることで、学術的研究成果を発信する自然・歴史・文化のストーリー展示の最新研究成果展示と役割分担。

演出

見える収蔵庫の導入

- 収蔵庫の一部を見えるようにすることで、収蔵資料を最大限活用。
- 収蔵庫内で作業する研究員の姿も見えるようにすることで、探究を深めるきっかけを作る。

(構成イメージ)



(内容イメージ)

常設

出会う

発見

探究

フィールド
誘導

①図鑑的展示

自然 ～化石や剥製、レプリカなど標本の展示～ (展示物イメージ)

						
鉱物 コレクション	虫入り コハク	イッカク (北極圏の鯨類)	外国産の 蛾のコレクション	調査で採集 した植物標本	変形菌の 拡大模型	système naturel初版本 (分類学の祖リンネの貴重書)
地学分野のコレクション		動物分野のコレクション		植物分野のコレクション		自然誌分野の貴重書等

歴史 ～考古遺物や古文書、武器、絵巻、浮世絵などの展示～ (展示物イメージ)

					
土器	刀剣類	甲冑	古文書	文書箱	浮世絵
考古資料のコレクション	工芸品のコレクション		古文書のコレクション		絵画のコレクション

文化 ～民具や写真、記録映像などを用いた展示～ (展示物イメージ)

					
漁労具	農具	川船	漁師の祝着	まつり・行事の記録	古写真
民俗文化財のコレクション				記録映像や過去の風景写真のコレクション	

②最新情報等

最新研究成果展示



ヤドカリの分類学的研究成果

疫神除けのまじないに
関する研究成果

新着資料展示



寄贈を受けた資料の展示

フィールド誘導展示 フィールドへとつなぐ

常設

出会う

発見

探究

フィールド
誘導

フィールドを紹介する展示や生態園等での観察体験を通して、来館者をフィールドへとつなぐ。

構成

フィールドと共通性・連動性を持たせ、来館者をフィールドへ誘う構成

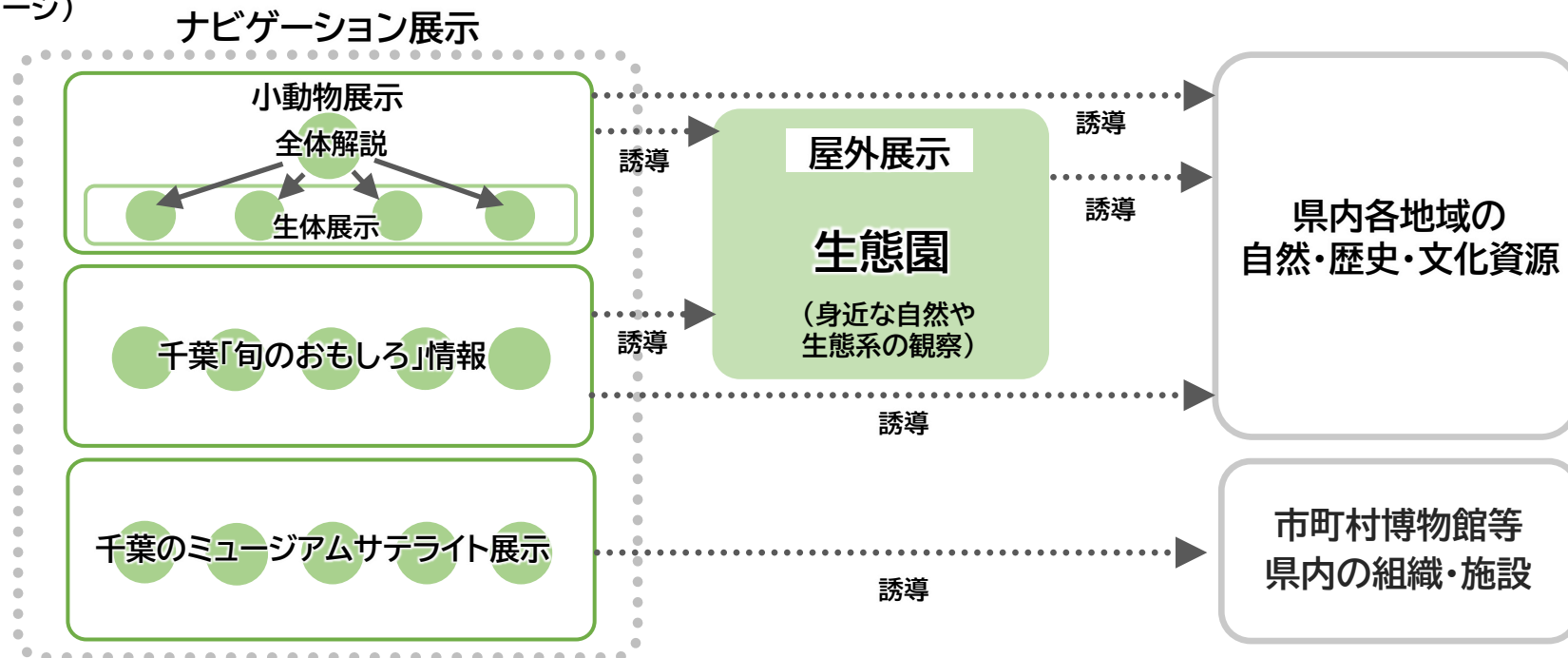
- 小動物展示室から屋外展示の生態園へ、近場の生態園から県内各地のフィールドへ、と来館者をフィールドへ徐々に誘う
- 千葉「旬のおもしろ」情報を「ストーリー展示」等の付帯とし、千葉のミュージアムサテライト展示を多くの来館者が利用するエントランス等に設定することで、来館者を展示からフィールドへと誘う

演出

タイムリーな情報を発信するフレキシブルで機能的な展示システム

- 展示の入れ替えや情報更新が容易な展示システムを設定し、県民がつねに「旬」な情報に触れ、フィールドへ行きたくなるように演出

(構成イメージ)



(内容イメージ)

常
設出
会
う発
見探
究フ
ィ
ー
ル
ド
誘
導

①小動物展示 ～生きた小動物を展示～

県内の身近な動物から来館者をフィールドへ誘う。

千葉の小動物

- 水生動物
(サワガニなど)
- 陸生動物
(アオダイショウなど)



●青いサワガニ



●ギンブナ



●アカハライモリ



●アズマヒキガエル



●ニホンイシガメ



●アオダイショウ

②千葉「旬のおもしろ情報」～その時々の中葉県内の見どころを先取りして紹介～

県内の自然・歴史・文化に関する「現地発の最新情報」や「いまだから体験できる情報」を伝える。

千葉
各地のおもしろ情報

- 桜の開花、紅葉
- お祭り
- 季節の催事
- 今が旬な観光地

など

中央博の
活動紹介

- 県内各地の生物相調査
- 考古・地学分野の発掘
- 調査成果の公開

など

千葉県の
活動紹介

- 特定外来生物の対策
- 千葉県レッドリスト
- ブランド食材の選定、
新品種の改良

など

③千葉のミュージアムサテライト展示 ～各地域の多彩な魅力と博物館情報を発信～

国立歴史民俗博物館や市町村博物館等による情報発信スペースを設定し、県内各地域の自然・歴史・文化の魅力を発信するとともに、各地の身近な自然・歴史・文化の学びの場として、地域の文化施設の情報を提供する。

県内
博物館の情報

- 企画展紹介
- 体験プログラム
- 来館案内

など

県内
文化施設の情報

- 講座・講演会
- 演奏会
- 記念イベント

など

(内容イメージ)

④生態園 ～都市の中で自然や生態系を五感で感じる屋外展示～

常設

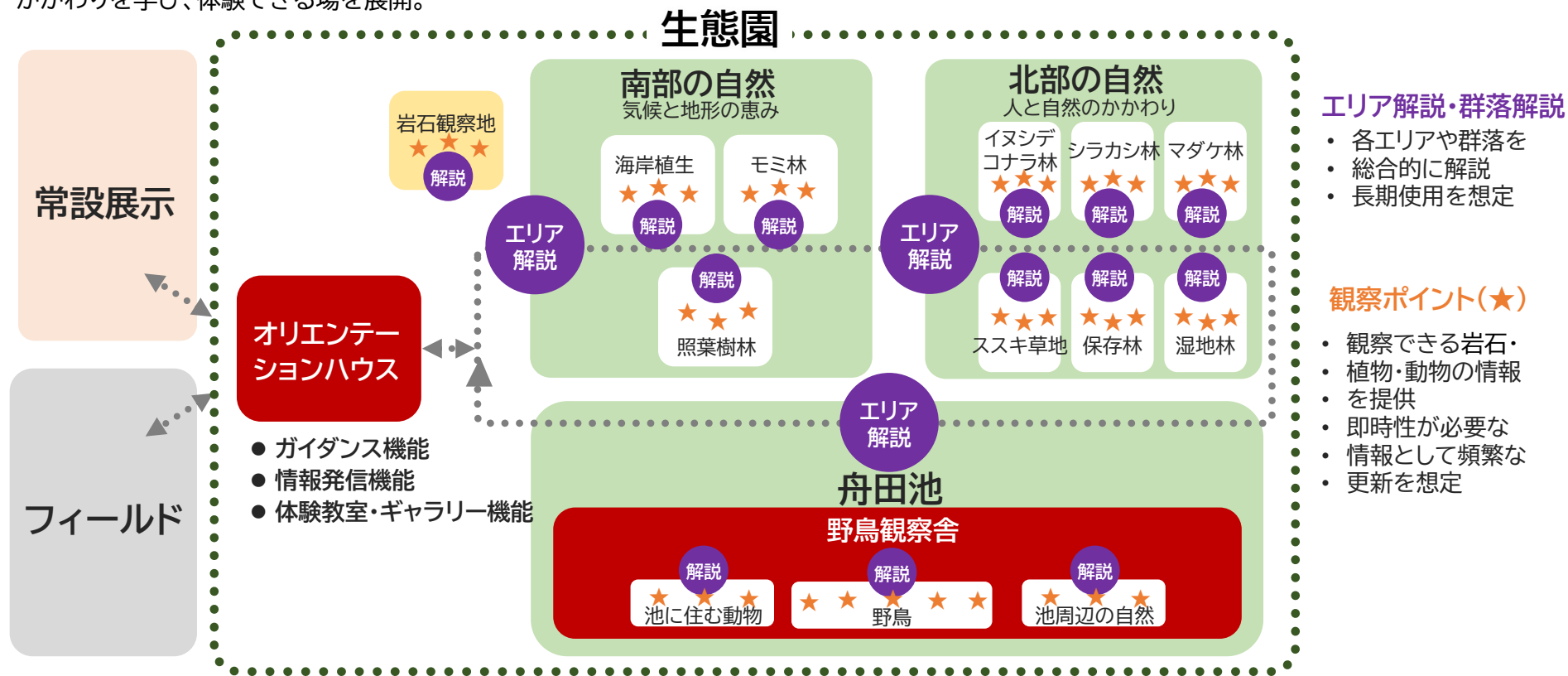
出会う

発見

探究

フィールド
誘導

展示室とフィールドをつなぐ場所として、千葉県の実代表的な自然を「生きたまま」再現することで千葉の自然や生態系の多様性を五感で感じてもらうとともに、都市の中での気軽な自然体験を提供する。また、「人のいとなみも生態系の一部」という視点を加えることで、千葉の人と自然のかかわりを学び、体験できる場を展開。



【オリエンテーションハウス】回遊と体験の拠点としての機能向上

- 生態園におけるビジターセンターとしてガイダンス機能・情報発信機能を強化。
- 市民が生態園に関する活動や体験ができるような拠点としてアップデート。

【野鳥観察舎】誰もが利用しやすい施設に整備

- 誰もが気軽に、季節折々の野鳥と生態園の風景を楽しむことができるように、設備や展示環境を整備。